2010年12月1日(第2版)

アイミー
酸素透過性ハードコンタクトレンズ
取扱説明書【終日装用】

HARD

アイミーアスフェリックUV・エア
医療機器承認番号20400BZZ00342A09
アイミーサプリーム
医療機器承認番号20400BZZ00342000
アイミー EXプレミアム
医療機器承認番号20400BZZ00342A03
アイミーサプリーム・バイトーリック
医療機器承認番号20400BZZ00342000
アイミーサプリーム・フロントーリック
医療機器承認番号20400BZZ00342000
アイミークリアライフ
医療機器承認番号21700BZZ00168000
アイミークリアライフ・プルミエ
医療機器承認番号21700BZZ00168000
アイミーサプリームバイフォーカル
医療機器承認番号21400BZZ00555000

【警告】 危険

●万が一、破損などの不具合があるレンズを装用してしまったり、レンズが装用中に破損した場合は、自覚症状の有無にかかわらず、速やかに眼科医の検査を受けてください。
●レンズを適切に使用していても、長時間の使用により角膜内皮細胞の減少が早まったり、角膜(くろめ)への酸素供給が低下することにより角膜浮腫や角膜血管新生などが発症する危険性があります。定期的に眼科医の検査を受けてください。

特にご注意いただきたいこと

レンズの使用を開始する前には、必ず製品に付属する添付文書ならびにこの取扱説明書をよく読み、表現や内容でわからないことがあれば必ず眼科医に相談し、よく確認してから使用してください。製品に付属する添付文書ならびにこの取扱説明書は大切に保管してください。

レンズは眼に直接のせて使用するため、レンズの取扱方法を誤ると、角膜潰瘍などの重い眼障害につながることがあります。また、治療せずにそれを放置すると失明してしまうこともあります。
レンズを安全に使用するために、製品に付属する添付文書ならびにこの取扱説明書をよく読み、眼科医の指示に従い正しい取扱方法を守ってください。

① 装用時間を正しく守ること
装用時間には個人差があります。眼科医から指示された時間内で使用し、眠るときは必ずはずしてください。

② 取扱方法を守り正しく使用すること
レンズやケア用品の取扱方法を誤ると眼障害につながることがあります。レンズやケア用品(特にレンズ保存ケース)は常に清潔に保ち、正しい取扱方法を守ってください。

③ 定期検査は必ず受けること
自覚症状がなく調子よく装用していても眼やレンズにキズがついたり、眼障害が進行していることがあります。異常がなくても眼科医に指示された定期検査を必ず受けてください。

④ 少しでも異常を感じたら眼科医の検査を受けること
レンズをつける前に、毎日、ご自分で眼やニや充血がないか、またレンズをつけた後も、異物感などがないか確認し、少しでもこれらの異常を感じたら、すぐに眼科医の検査を受けてください。

一般財団法人
日本コンタクトレンズ協会

はじめに

一般的に酸素透過性ハードコンタクトレンズは、酸素を透さない従来のハードコンタクトレンズに比べて、ややキズがつきやすく汚れやすいという性質があります。レンズに無理な力が加わるとヒビが入ったり、また、爪などの固いものがぶつかると破損やキズの原因となることがありますので、使用前に必ず製品に付属する添付文書ならびにこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱方法を理解してから使用を始めてください。

●製品に付属する添付文書ならびにこの取扱説明書はいつでも読み返すことができるよう身近な所に大切に保管してください。
●製品に付属する添付文書ならびにこの取扱説明書を紛失した場合は、レンズ購入先、処方を受けたクリニックまたは弊社相談窓口に連絡し、すみやかに入手してください。

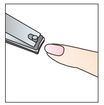
用語・マーク表示の説明

用語
装　　用: コンタクトレンズを眼につけること
終日装用: 起きている間だけレンズをつけ、眠る時は必ずレンズをはずす装用方法のこと
異 物 感: ゴロゴロするなど眼にゴミなどが入っているような感じがする状態のこと
眼 障 害: 痛み、充血、眼ヤニ、不快感、涙の増加、視力不安定などをともなう眼の異常のこと
疾　　患: 病気のこと
レンズケア: レンズをきれいに保つために行う手入れのこと
定期検査: 定期的に眼科医の検査を受けることで、眼障害の早期発見やレンズについたキズや汚れの確認をするための大切な検査です。
角膜内皮細胞: 角膜(くろめ)の一番内側に位置する細胞のこと

マーク表示
危険 守らないと眼に重い眼障害を引き起こす可能性がある場合に表示しています。
注意 障害を引き起こしたり、レンズにキズをつけたりする可能性がある場合に表示しています。
アドバイス その操作に補助的な説明が必要な場合に表示しています。

使用方法

【レンズをつける前に】



① **爪は短く切ってください。**
眼に傷やレンズにキズをつけないように爪はいつも短く切ってなめらかにしてください。

② **手指は清潔にしてください。**
レンズにふれる前には、手は石けんでよく洗い、水道水でよくすすいでください。

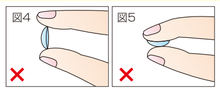
③ **レンズは明るく清潔な場所で取扱ってください。**
レンズは落としても見つけやすく、汚れにくい清潔な場所で取扱ってください。洗面台で取扱う場合は、レンズを流さないようにアイミーセイフティマットを置いたり、排水口に栓をしてください。

④ **レンズに汚れやキズがないことを確認してください。**
汚れなどがついている場合は、ワンオーケアやアイミースーパークリーナーで洗浄してください。洗浄しても汚れが落ちない場合やキズがついている場合は、レンズを装用せずに眼科医に相談してください。

【レンズの持ち方】

レンズを持つ時は、図1のように親指、人さし指、中指でかるく包むように持ってください。レンズをつける時は、図2のように凹面を上にして人さし指の先端にのせてください。レンズを洗浄する時には、図3のように人さし指、中指の間にレンズをのせ、親指の腹を使ってかるく指をまわすようにゆっくりこすってください。

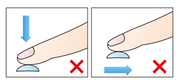
注意 ●強くつまんだり、図4のようにレンズを立てて持つと破損したり、変形する場合があります。
●図5のように親指と人さし指の2本だけで洗浄すると、レンズに無理な力が加わり、破損や、変形につながるおそれがあります。



【レンズを落とした時】

落としたレンズを拾う時は、人さし指の先を水でぬらし、かるくレンズに触れ、真上に持ち上げるように拾い上げてください。

注意 ●強くレンズを押しつけたり、引きずったりすると、キズがついたり、破損、変形する場合があります。



【レンズのつけ方】

① レンズをきき手の人さし指の先端にのせ、同じ手の中指で下まぶたを下げ、もう一方の手の中指(または人さし指)で上のまぶたを持ち上げ眼を大きくあけてください。

② 鏡を見ながらレンズをゆっくり眼に近づけ、角膜(くろめ)の上にそっとのせてください。

③ レンズが正しく角膜(くろめ)の上にのったことを確認し、下まぶたを押さえていた指から順番に離し、まばたきをゆっくりしてください。

危険 ●レンズをつける時は、眼に強く押しつけたり、爪を立てたりしないでください。

注意 ●まぶたを押さえている指を急に離したり、強く眼を閉じると、レンズがしろめにずれたりはずれたりすることがあります。

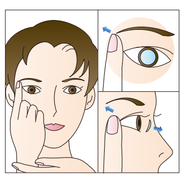
アドバイス
●レンズをつける時はいつも同じ側からつけるように心がけると、左右の間違いが少なくなります。
●まぶたを押さえる指先がぬれていると、すべって眼をあけづらくなります。指先の水分をよくふきとってください。
●まぶたを押さえる時は、まつ毛の生え際に指をあてると、眼を大きくあけることができます。
●鏡と顔は平行にします。上目使いになると角膜(くろめ)が上まぶたにかくれ、レンズをうまく角膜(くろめ)にのせることができません。
●慣れるまではレンズを落としてもすぐ見つけられるように、タオルなどを敷いた台の上で練習するようにしてください。

【見え方の確認】

レンズをつけたあとは、鏡をみて、レンズが角膜(くろめ)にのっているかどうかを確認してください。
レンズが角膜(くろめ)にのっているのに見え方がぼやけていたり、異物感などがある場合は、一度レンズをはずし、汚れの有無やレンズの左右が間違っていないか確認し、再度つけ直してください。
それでも直らない場合は、レンズの装用を中止して眼科医に相談してください。

【レンズのはずし方】

レンズのはずし方1



① 鏡の前でできるだけ大きく眼をあけて、レンズの位置を確かめてください。

② はすす眼と同じ側の人さし指で目尻を押さえ、レンズより眼を大きく開いたまま水平より幾分上向きに引っ張って、まばたきするとレンズがはずれます。

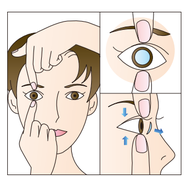
③ もう一方の手のひらでレンズを受けとめてください。

危険 ●指先や爪が直接眼に触れないように注意してください。眼に傷がつくことがあります。

注意 ●一度ではずれない時は、いったん指を離し、最初からやり直してください。

アドバイス ●目尻の下がった人は、上まぶたを少し上げ気味にして、真横から耳側斜め上に引っ張ります。目尻の上がった人は、目尻の内側に指を立てて、真横に引きます。その場合、できるだけ角膜(くろめ)に近い部分のまぶたを引いてください。

レンズのはずし方2



① 鏡を見ながら両手の人さし指を上下のまぶたのまつ毛の生え際においてください。

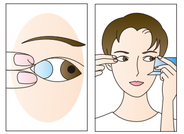
② 下側の人さし指で下まぶたをかるく押さえ、レンズが下がらないように固定してください。

③ 上まぶたの先端で、図のようにレンズのフチをひっかけてはずします。

アドバイス **はずれない原因**
●目尻の引き方が悪く、眼が細くなっている場合→眼を大きく開き、そのまま引きます。
●片方のまぶたしか押さえていない場合→上下両方のまぶたを同時に押さえて引きます。
●引っ張る角度が悪い場合→水平線より上向きに引きます。
●まばたきのタイミングが悪い場合→まばたきは目尻を横に引いた後にします。
●まばたきと同時に押さえた指を離してしまう場合→目尻を横に引いたまま、まばたきをします。

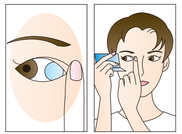
【レンズがずれた時のなおし方】

レンズが耳側にずれた時



①鏡を鼻側に持ち、顔を正面に向けたまま眼だけ鏡の方を見てください。
②人さし指と中指で目尻を押さえ、レンズを固定してください。
③鏡をゆっくり正面へ動かしながら、レンズを角膜(くろめ)の上で押し戻してください。この時、眼は鏡を見続けるようにしてください。

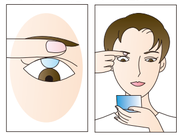
レンズが鼻側にずれた時



①鏡を耳側に持ち、顔を正面に向けたまま眼だけ鏡の方を見てください。
②人さし指で目頭を押さえ、レンズを固定してください。
③鏡をゆっくり正面へ動かしながら、レンズを角膜(くろめ)の上で押し戻してください。この時、眼は鏡を見続けるようにしてください。

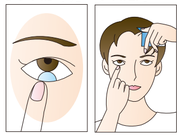
危険 ●眼の中のずれたレンズに直接指をふれて直すことは絶対にしないでください。眼に傷やレンズにキズをつけるおそれや、レンズが破損することがあります。

レンズが上方へずれた時



①鏡を下方に持ち、顔を正面に向けたまま少しアゴを出した状態で眼だけ鏡の方を見てください。
②人さし指で上まぶたのまつ毛の生え際をかるく持ち上げ、レンズの上方を固定してください。
③鏡をゆっくり上方へ動かしながら、レンズを角膜(くろめ)の上へ押し下げてください。

レンズが下方へずれた時



①鏡を上方に持ち、顔を正面に向けたまま少しアゴを出した状態で眼だけ鏡の方を見てください。
②人さし指で下まぶたのまつ毛の生え際をかるく押し下げ、レンズの下方を固定してください。
③鏡をゆっくり下方へ動かしながら、レンズを角膜(くろめ)の上へ押し上げてください。

注意 ●レンズを角膜(くろめ)に戻す途中にまばたきをしないでください。まばたきをすると、レンズがはずれることがあります。
●ずれたレンズが戻せない場合は、直ちに眼科医に相談してください。
●眼の構造上、レンズが眼の裏側に入って取れなくなることはありません。落ち着いてレンズの場所を確認してください。

装用スケジュール

装用可能な時間には個人差があります。個々のスケジュールについては眼科医の指示に従ってください。
はじめて装用する場合、初日から長時間の装用はできません。眼科医の指示に従って、最も適したスケジュールで徐々に慣らしてください。
また、眠る時には必ずレンズをはずしてください。

標準的な装用スケジュール

	装用時間 6h 8h 10h 12h 14h 16h
1日目	8時間
2日目	10時間
3日目	12時間
4日目	14時間
5日目	16時間
6日目以降	終日装用

＊眠る時には、必ずレンズをはずしてください。

【装用を中止した場合】

何らかの事情により装用を中止した場合は、右記のスケジュールを参考にして装用を再開してください。
特に眼障害のために装用を中止した場合は、必ず眼科医の指示に従い再装用の許可が出てから装用してください。

装用中止期間	時間を減らす
一週間未満の中止	初日から終日装用が可能ですが、個人差があるため眼科医の指示を受けてください。
一週間以上の中止	眼科医の指示を受け、装用スケジュールに従い徐々に慣らしながら装用してください。

注意 ●1ヶ月以上装用を中断した場合は、装用する前に必ず眼科医による眼とレンズの再検査を受けてから装用を開始してください。

定期検査

調子よく装用していても、レンズにキズや汚れがついていたり、眼に合わなくなっていたり、また、気がつかないうちに眼に障害を起こして危険な状態になる場合もあります。定期検査は引き続きレンズを安全に使用できるかどうかを判断するため、ぜひ受けなければならない、非常に重要な眼とレンズの総合検査です。

装用開始 → 1週間後 → 1ヵ月後 → **その後3ヶ月に1回ずつ必ず定期検査を受けてください。**

●**定期検査の記録**　眼科医に指示された次回の定期検査日を記入し、忘れずに受けてください。

定期検査日	検査日	定期検査日	検査日	定期検査日	検査日	定期検査日	検査日
装用開始1週間後(1回目)	/	装用開始6ヶ月後(4回目)	/	(7回目)	/	(10回目)	/
装用開始1ヶ月後(2回目)	/	装用開始9ヶ月後(5回目)	/	(8回目)	/	(11回目)	/
装用開始3ヶ月後(3回目)	/	装用開始1年後(6回目)	/	(9回目)	/	(12回目)	/

注意 ●発病、妊娠、薬剤の服用・点眼などによる体調や眼の状態の変化、あるいは生活環境の変化などにより、レンズが装用できなくなる場合があります。少しでも異常を感じたら、定期検査を待たずに直ちに眼科医の検査を受けてください。

レンズケア

【レンズケアを行う前の注意事項】

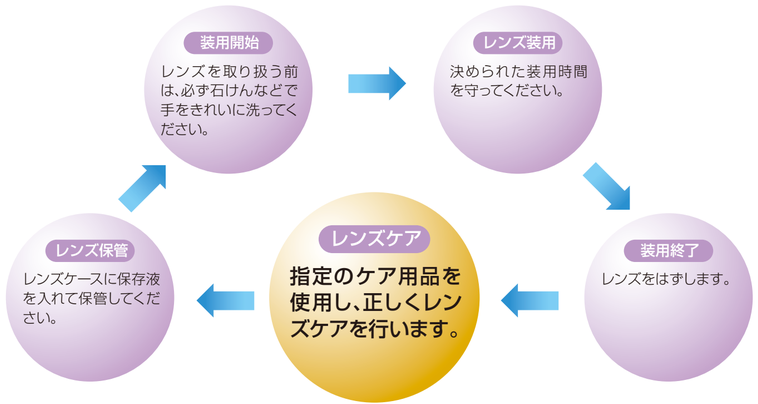
コンタクトレンズを装用すると、涙液中のタンパク質、脂質、カルシウムなどがレンズに付着したり、取扱い時に手指を介して汚れがレンズに付着したりします。毎日のケアを怠ると、レンズに汚れが蓄積したりカビや細菌が繁殖し、レンズの劣化を早めたり、変形・変色の原因になり、そのようなレンズを装用すると眼に障害を起こすことがあります。
コンタクトレンズを快適に使用するために必ず次の注意事項を守ってレンズケアを行ってください。
①ケア用品の正しい取扱方法を守り、レンズケアは必ず毎日行ってください。
②使用前には、各ケア用品の説明書（パッケージなどに表示されている指示事項や添付文書）を必ずよく読んでください。
③レンズに付着する汚れには個人差があります。レンズが汚れやすい場合には、眼科医の指示に従い、適切なレンズケアを行ってください。
④この取扱説明書に指示されているケア用品、または眼科医が指定したケア用品以外は使用しないでください。

危険
- ケア用品は絶対に服用しないでください。誤って口に入れた場合は、水道水でよくすすぎ、医師の診察を受けてください。幼児がいる場合は、誤飲を避けるためケア用品の管理にはじゅうぶん注意をしてください。
- 絶対に点眼しないでください。誤って眼に入った場合は、すぐに大量の流水またはぬるま湯で眼を洗い、直ちに眼科医の診察を受けてください。
- ケア用品の使用によると思われる眼の異常や刺激症状を感じた場合は、直ちに使用を中止し、眼科医に相談してください。

注意
- 指示された以外のケア用品の使用による事故（眼障害・レンズの変質、変形、劣化など）が発生してもメーカーとしての責任を負いかねる場合があります。
- 使用期限（EXP）の過ぎたものは使用しないでください。（使用期限はケア用品のパッケージやボトルなどに"EXP"として表示されています）
- 容器の先端がコンタクトレンズや指などに触れると雑菌等のため、液剤が汚染されたり混濁することがありますので取扱いにはじゅうぶん注意してください。混濁が少しでも認められた場合は使用を中止してください。
- 一度使用した液は再使用しないでください。
- 使用後はキャップをしっかりしめ、直射日光を避けた常温（15～25℃程度）で保管してください。
- 他社製品との混合使用は絶対にしないでください。レンズが使用できなくなるおそれがあります。

【ケアサイクル】

眼科医より指示された使用サイクルに従い、毎日、レンズの洗浄・保存を行い、レンズを清潔に保ってください。



【レンズケア方法】

- ケア用品の選択・ケア方法については、眼科医の指示に従ってください。
- 使用前には、各ケア用品の使用説明書（パッケージなどに表示されている指示事項や添付文書）を必ずよく読んでください。

【レンズの長期保存について】

- レンズ装用を長期間中止する場合は、レンズの保存方法について必ず眼科医に相談してください。
- なお、装用を再開する場合も、眼やレンズの状態を確認するため、必ず眼科医に相談してください。

使用上の注意

眼の安全性を確保するための注意

- レンズ装用前には、レンズに破損、キズ、異物付着などの不具合がないかどうかを必ず確認してください。
- 万一レンズに不具合があった場合は、絶対に装用しないで、眼科医又は購入先でレンズの検査を受けてください。
- 装用した後、眼やニや充血がないか、異物感がないか、視力が低下していないかなど、自己点検を行う習慣をつけてください。
- レンズ装用中に眼をこすらないでください。
- レンズ装用直後、または装用中に眼に痛みを感じた場合は、直ちにレンズをはずし、眼科医の診察を受けてください。
- 装用中または着脱時にレンズ破損等の異常が発生した場合、あわてず速やかにレンズを眼からはずしてください。その後、痛みがなくても必ず眼科医の検査を受けてください。

小児・高齢者・妊産婦の使用、その他の注意

- 小児が使用する場合は、保護者の指導監視のもとに使用してください。
- 高齢者の方で、自分でレンズのつけはずしやレンズケアができない場合は、眼科医に相談し、その指示に従ってください。
- 妊婦、産婦、経口避妊薬で避妊している場合は、角膜形状が変化しレンズの装用状態が変化することがあるので、じゅうぶんに注意してください。
- 発病、妊娠、薬剤の服用や点眼等による体調や眼の状態の変化、または生活環境の変化によっては、レンズの装用に影響を及ぼす場合があります。必要により、担当医師に相談してください。
- アレルギー疾患がある場合、有害事象があらわれる可能性が高いのでじゅうぶんに注意してください。

レンズを破損や汚れから守るための注意

- レンズをキズや亀裂、破損、汚れなどから守るため、次の点に注意してください。
・化粧品、薬品類、ヘアスプレー、ハンドクリーム、油類などをレンズにつけないようにすること。レンズが汚れて使えなくなってしまうばかりか、異物感、見えにくいなど、眼のトラブルの原因になる可能性があります。
・化粧をする時はレンズをつけてから行うこと。化粧後にレンズをつけると、レンズに化粧品の成分が付着する場合があります。
・化粧落としをする時は、レンズをはずしてから行うこと。レンズをつけたまま化粧落としをすると、クレンジング剤と化粧品の両方が眼の中に入り、レンズに付着する場合があります。
・レンズをティッシュペーパー、布、メガネ拭きなどでこすらないでください。
・落としたレンズを拾う時は、濡らした指先でレンズにそっとふれ、吸いつけるように真上に拾い上げてください。その際に、強くレンズを押しつけたり、引きずったりしないでください。
・レンズに極端な温度変化を与えないでください。
・レンズを使用しない時は、洗浄保存液中に保管し、乾燥させないようにしてください。
- レンズ装用中、防腐剤の入っていない人工涙液以外の点眼はできるだけ避けてください。点眼剤の成分によっては、レンズに影響を及ぼす可能性があります。

遠近両用コンタクトレンズ※装用の方への注意

※アイミークリアライフ、アイミークリアライフ・プルミエ、アイミーサブリームバイフォーカル

- 視軸移動による遠・近の使い分けに慣れるまでや、周囲の明るさによって視力が変化することに慣れるまでは、見え方が安定しないことがありますので注意してください。
- 周囲の明るさが変化すると瞳孔径も変化し見え方が変わります。夕方や夜間においては瞳孔が散瞳するため、遠方視力・近方視力ともにやや低下しますので注意してください。
- 視力が安定し慣れるのに、通常のレンズよりも時間がかかることがあります。車やバイクの運転、機械類の操作など危険性をともなう作業を行う場合は、見え方にじゅうぶん慣れるまでは、今まで使用していたコンタクトレンズや眼鏡を使用してください。
- 見え方にじゅうぶん慣れるまでは、階段の昇り降り（特に降りる時）に注意してください。
- 広い遠近光学領域を確保するために、レンズの直径が通常のレンズよりもやや大きめになっています。そのため、レンズ着脱の際に「レンズがはずしにくい」と感じる場合もあります。レンズの着脱がうまくできない場合は眼科医に相談してください。

その他の注意

- レンズの左右を間違えないように注意してください。
- 運転中にレンズがずれたり、はずれた場合は運転を中止してください。
- 装用中止時の対応として眼鏡を用意しておいてください。
- 海外で使用する時は、万一に備えて、予備レンズと眼鏡を用意してください。
- 水泳のときはレンズをはずしてください。
- レンズを装用したまま、入浴・洗顔を行うときは注意してください。
- レンズを装用したままスポーツをしたい場合は、その種目を眼科医に相談してください。

装用にともなう症状と対策

レンズに慣れるまでは／下記のような症状が見られることがあります。個人差はありますが、慣れるにしたがって解消されます。このような症状が長く続いたり、症状が強い場合は無理をせずに早めに眼科医の検査を受けてください。
・軽い異物感・軽い充血・視力不安定・涙が多く出る・眼のかゆみ・光がにじんで見える

レンズに慣れてからも／次に記載するような症状が見られることがあります。それぞれの対処方法で改善されない場合は、直ちに装用を中止して眼科医の検査を受けてください。

症状	考えられる原因	対処方法など
異物感 痛み	異物や汚れがレンズに付着している	レンズを装用する前に異物や汚れがないか確認し、異物や汚れがみられた場合は、指定の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから装用してください。装用中の場合は、一度眼からレンズをはずしてから、上記と同様に対処してください。
	眼の中へ異物が侵入	レンズをはずし、眼の中の異物を取り除いた後、指定の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから装用してください。
	眼疾患（角膜障害、アレルギー性結膜炎など）	眼科医の診察を受けてください。
	レンズのキズや破損	レンズを装用する前にキズや破損がないかを確認してください。レンズにキズや破損が見られた場合は、装用を中止し、眼科医の検査を受けてください。装用中の場合は、一度眼からレンズをはずしてから、上記と同様に対処してください。また、知らないうちにキズがついている場合もあるため、必ず定期検査を受けてください。

症状	考えられる原因	対処方法など
異物感 痛み	レンズの変形	レンズが変形すると、眼とレンズのカーブが合わなくなり、異物感や痛みを感じることがあるため、変形したと思われるレンズは装用せず、眼科医によるチェックを受けてください。また、適合したケア用品以外はレンズに影響を及ぼす可能性があるため、使用しないでください。
	疲労・体調不良	装用を中止し、体調が回復後、再度装用を試みてください。それでも症状が改善しない場合は、眼科医の診察を受けてください。
	レンズの乾燥	レンズをはずして専用の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから再度装用してください。眼科医の指示に従い、人工涙液を点眼してください。
	装用過多	装用時間を短くしてください。
かゆみ	レンズに汚れ等が付着している	洗浄方法や頻度について眼科医と相談してください。装用の可否について眼科医と相談してください。
	花粉症等のアレルギー症状	
くもる 視力不安定 見にくい	レンズの汚れ	レンズをはずして専用の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから再度装用してください。それでもくもりが解消しない場合は、眼科医の診察を受けてください。
	瞬目不足、レンズ表面の乾燥（エアコンの風が当りやすい等、乾燥しやすい環境にいる。パソコン等の画面を凝視することでレンズ表面が乾燥し、くもる。）	意識的に瞬目の回数を増やしてください。 レンズをはずして専用の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから再度装用してください。 眼科医の指示に従い、人工涙液を点眼してください。
	レンズのキズ・破損	レンズを装用する前にキズや破損がないかを確認してください。レンズにキズや破損が見られた場合は、装用を中止し、眼科医の検査を受けてください。装用中の場合は、一度眼からレンズをはずしてから、上記と同様に対処してください。また、知らないうちにキズがついている場合もあるため、必ず定期検査を受けてください。
	左右逆装用	右眼と左眼の見え方を比較して、左右を確認してください。
	レンズの表裏が逆（反転）	洗浄やすすぎなどの取り扱いの際、力を加えすぎたためにレンズの表裏が逆（反転）になることがあるため、レンズを取り扱う際は力を加えないようにしてください。また、レンズの表裏が逆になったと思われる場合は、装用せず、眼科医によるチェックを受けてください。
	装用過多	装用時間を短くしてください。
しみる 涙がたくさん 出る	洗浄液がレンズに残っている	レンズをはずして、水道水でよくすすいだ後、再度装用してください。
	汚れの付着	レンズをはずして専用の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから再度装用してください。それでも症状が改善しない場合は、眼科医の診察を受けてください。
	装用過多	装用時間を短くしてください。
	眼疾患	眼科医の診察を受けてください。
	レンズのキズ・破損	レンズを装用する前にキズや破損がないかを確認してください。レンズにキズや破損が見られた場合は、装用を中止し眼科医の検査を受けてください。装用中の場合は、一度眼からレンズをはずしてから、上記と同様に対処してください。また、知らないうちにキズがついている場合もあるため、必ず定期検査を受けてください。
眼ヤニができる	アレルギー	眼科医の診察を受けてください。
	レンズのキズによる刺激	レンズを装用する前にキズがないか確認し、レンズにキズが見られた場合は、装用を中止し、眼科医の検査を受けてください。
	疲労・体調不良	装用を中止し、体調が回復後、再度装用を試みてください。それでも眼ヤニができる場合は眼科医の診察を受けてください。
	眼疾患	眼科医の診察を受けてください。
疲労感 充血	睡眠不足・体調不良	装用時間を減らし、体調の回復後、使用してください。 また、充血が続く場合は、眼科医の診察を受けてください。
	眼の使いすぎ	
	装用過多	
	眼疾患	眼科医の診察を受けてください。
乾燥感	瞬目が少ない	意識的に瞬目の回数を増やしてください。
	レンズの乾燥	意識的に瞬目の回数を増やしてください。 レンズをはずして専用の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから再度装用してください。 眼科医の指示に従い、人工涙液を点眼してください。
	冷暖房で空気が乾燥	
	長時間の近業作業	
レンズが ずれる	レンズがあっていない	眼科医の診察を受けてください。
	レンズの変形	レンズが変形すると、眼とレンズのカーブが合わなくなり、異物感や痛みを感じることがあるため、変形したと思われるレンズは装用せず、眼科医によるチェックを受けてください。また、適合したケア用品以外はレンズに影響を及ぼす可能性があるため、使用しないでください。
	レンズの表裏が逆（反転）	洗浄やすすぎなどの取り扱いの際、力を加えすぎたためにレンズの表裏が逆（反転）になることがあるため、レンズを取り扱う際は力を加えないようにしてください。 また、レンズの表裏が逆になったと思われる場合は、装用せず、眼科医によるチェックを受けてください。
	汚れの付着	レンズをはずして専用の洗浄液でこすり洗いを行い、水道水ですすぎをじゅうぶんに行ってから再度装用してください。それでも症状が改善しない場合は、眼科医の診察を受けてください。
はずした 後の痛み	装用過多	装用時間を減らしてください。
	疲労・体調不良	装用を中止し、体調が回復後、再度装用を試みてください。それでも痛みが出る場合は、眼科医の診察を受けてください。
	眼疾患	眼科医の診察を受けてください。

お問い合わせ先

アイミー株式会社

本社　横浜市磯子区東町15-32

営業所／東京・東北・大阪・福岡

ホームページアドレス　http://www.aime.jp
（携帯電話モバイルサイトhttp://www.aime.jp/mobile/）

■症状に関するお問合せ／レンズの装用にともなう眼の症状などについては、必ず受けた眼科・クリニックに相談してください。

■製品に関するお問合せ／レンズの品質には万全を期しておりますが、万一レンズや包装容器に異常を発見した場合には使用せず、下記のフリーダイアルまでお問い合わせください。

アイミーコール　0120-131469（アイミー ヨロシク）
受付時間 9:00～12:00・13:00～17:00（土・日・祝日除く）

AM09-07011